

編集後記

この3月11日、マグニチュード9.0という未曾有の大地震が、東北地方から関東地方にかけての広い地域を襲った。大地震は大津波を引き起こし、多くの岩手・宮城・福島といった東北地方の広い範囲で、建物が、車が、船が、人が、流され、道路や畑が水没し、はかりしれない被害が生じた。役所までが流され、壊滅的な被害を被った町もある。千葉では液状化の現象も起こり、建物が傾き、上下水道が使用不能になり、生活インフラに多大な被害が生じた。各地で火災も発生した。さらには、原子力発電所の事故も発生し、福島第一原子力発電所では、非常用の電源を失い、建屋が爆発し、放射能漏れを生じるなど、レベル7と言われる深刻な事態に陥り、現在も危険な状況が続いている。

しかし、悪いニュースばかりではない。こうした中、日本は、世界各国からあたたかい支援をいただいた。被災地への救援や医療支援からはじまり、義援金、原発事故対策の技術支援など、様々な形で、海外から支援を受けている。

これは、日本がこれまで積み上げてきた、各国との交流の成果であろう。日本が、孤立せず、他国との友好を深めてきたことが、今回の支援につながったと考える。昨年1月のハイチ地震や本年2月のニュージーランド地震では、日本人が被災地に対して支援したが、今回は逆に、世界から日本が支援を受けた。人々が、民族の違いを超えて、国境を越えて、相互理解や友好に努めてきた結果、他国に対しても親身になれる温かい助け合いの気持ちが醸成されたのではなかろうか。こうした友好の促進も、融合文化の一つのテーマであろう。

そんなことを考えていた折に、本学会の名誉会員でもあるドナルド・キーン先生が、この度の東日本大震災を受け、日本に永住し、日本国籍を取得することを決意した、との報に接した。これほど日本を、日本人を好きになっていただけて、日本人として、なんと嬉しく、元気づけられたことか。言葉にならない感謝の気持ちで、胸がいっぱいになった。この場を借りて一言お礼を言いたい。本当にありがとうございます。(編集子)

『融合文化研究』第16号

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

発行所 192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 菊地方

国際融合文化学会 (ISHCC) 事務局

発行人 上田 邦義

発行日 2011(平成23)年5月8日 (Web公開)

Published by: International Society for Harmony & Combination of Cultures (ISHCC)

c/o Kikuchi, 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

e-mail: ueda@gssc.nihon-u.ac.jp Tel: 0557-82-1411(Ueda)
